

# ネパール・カトマンズ盆地における王宮広場周辺の生活空間に関する研究 —バクタプルにおけるダルマシャーラの機能と形態—

市川 尚紀

## A Study on Community Space around Darber Square in KATHMANDU Valley, NEPAL -The function and the form of DHARMASALA in BHAKTAPUR-

Takanori ICHIKAWA

### Synopsis

There are many Dhalmashara in the residential area around the durbar square in Katmandu valley, Nepal. Dhalmashara is important architecture for inhabitants. However, there is not detailed information about it. Therefore I investigated the function and the form of Dhalmashara. As a result, I understood next. Dhalmashara is distributed over the residential whole area. Now it is the community space which is important for inhabitants. Dhalmashara is the free break place that the wealth layer made for a pilgrim. It is also used for religious event. Dhalmashara has four kinds of "Pati" "Sattal" "Mandapa" "Chapat". I can classify pati in "independent type" "piloti type" "external type". And I can classify Sattal in "piloti type" "layered pagoda type" "house type".

Keywords : Dhalmashara, Community space, Pati, Sattal

### 1. 序論

ネパールの首都があるカトマンズ盆地、標高が約1,350mで緑豊かな山々に囲まれており、カトマンズ(Kathmandu)市、パタン(Patan)市、バクタプル(Bhaktapur)市の3つの都市がある(図1)。それらの都市には、ヒンドゥー教と仏教の聖域や遺跡などが点在しており、世界各国から巡礼者が訪れる地として有名である。また、チベットやインドとの交易路として栄えたことで多様な宗教芸術が発達し、それにより築かれたカトマンズ、パタン、バクタプルの旧王宮広場(ダーバー・スクエア(Durbar Square)) (写真1) や、スワヤンプナート、ボダナート、チャングナラヤン、パシュパティナートといった建築物群は、1979年にユネスコ世界文化遺産に登録されている。

それらは、参拝や観光の対象としてだけでなく、住民

にとって重要な生活空間としても利用されている。特に旧王宮広場周辺の建築群には、無料休泊所や住民が共同で利用するための水場などが点在しており、小さな建築ではあるが街並みの形成に大きく寄与している。この休泊所や共同水場は、それぞれ「ダルマシャーラ(Dhalmashara) (写真2)」「ヒティ(Hiti)」と呼ばれ、住民のコミュニケーション行為や宗教的行為などを行う時の重要な空間である。言い換えれば、これらの半戸外空間は生きたコミュニティ空間であり、我が国のまちづくりを考える際に有用な示唆を与えるものと考えられる。しかしながら、このような休泊所や共同水場に関する資料は数少なく、その存在数すら正確に把握されていない。

そこで本報告では、ダルマシャーラが数多く存在し、なおかつ現地住民の日常生活行為が多くみられるバク

ダブルのダーバー広場周辺の生活空間を対象として、ダルマシャーラの機能と形態の特徴を把握するとともに、存在するすべてのダルマシャーラを把握することで、ダルマシャーラが、いかなる存在なのかを考察することを目的とする。なお、共同水場であるヒティについての調査報告は次報に譲る。

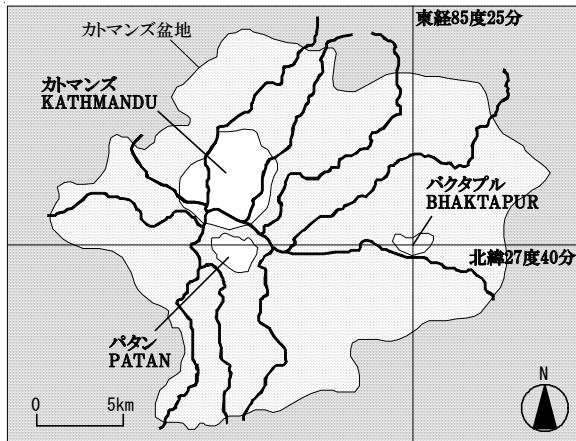


図1 カトマンズ盆地



写真1 バクタプルのダーバー広場



写真2 バクタプルのダルマシャーラ

カトマンズ盆地にある建築群に関する論文は数多くあり、地域、民俗、気候風土、文化、カースト制度、歴史的建築物などの様々な側面から明らかにされている。たとえば吉田ら<sup>1)</sup>、バハドウルら<sup>2)</sup>、リジャルら<sup>3) 4)</sup>は、ヒマラヤ山脈が作り出す標高差による独自の温熱環境と住まいの関係性について研究している。空間構成や建築構造に関する研究では、ダーバー広場を構成する建築や住居の中庭(チョク)、仏教僧院についての研究が多く、佐藤<sup>5)</sup>、渡辺ら<sup>6) 7) 8)</sup>、黒津<sup>9)~15)</sup>らの研究があげられる。ダーバー広場だけでなく生活空間についての研究もある。プラジャパティら<sup>16) 17)</sup>は、ネワール族の暮らしや習慣と住居の関係性について、谷内ら<sup>18)</sup>はキルティプルの住空間概念について分析している。黒川ら<sup>19) 20)</sup>はバクタプルの住区の寺院や民家の平面構成面について調査し、そこではダルマシャーラの分布や街路との関係についても言及しているが、住居の研究が中心であり、ダルマシャーラの詳しい情報はない。黒津<sup>21)</sup>と渡辺<sup>22)</sup>による、パタン市の水場ヒティに関する研究では、ヒティの造りや立地・分布、平面形状や平面型の規模変遷について詳しく書かれているが、その他の都市のヒティについて書かれたものは見当たらない。

このように、ダーバー広場を構成する宗教建築や、その周辺の住居空間に関する研究は多くみられるが、ダルマシャーラやヒティといったコミュニティ空間に関する資料は数少ないことがわかる。

## 2. 調査方法

調査方法を表1に示す。本調査は、ネパール連邦民主共和国バクタプル市のダーバー広場周辺の世界遺産に登録された市街地の東側を対象とした。バクタプル市は、カトマンズ市やパタン市に比べて比較的観光客が少なく、現地住民の静かな日常生活風景が残されているため、ダルマシャーラや共同水場の本来の使われ方を観察することができると思ったからである。

調査期間は2013年8月9~14日、19日、23~25日の合計10日間行い、調査対象地の踏査と観察調査によって、すべてのダルマシャーラの位置と形態を記録し、写真撮影を行った。また、ダルマシャーラとはどのような目的で作られ、どのような建築を指すのか、詳しく書かれた資料が見当たらないため、現地で資料収集を行い、さらに現地住民(英語が通じ、なおかつダルマシャーラのことを知っている住民2人)へのヒヤリングによって確認作業を行いながら、ダルマシャーラの機能と形態を分析することにした。

表1 調査方法

調査期間	2013年8月9日～14日, 19日, 23～25日 (10日間)	
対象地	ネパール連邦民主共和国バグマティ県 バクタブル郡バクタブル市 ダーバー広場周辺の世界遺産登録対象地域東側	
調査方法 調査項目	踏査 写真撮影	ダルマシャーラ
	観察	建築形態
	資料	資料1 MICHAEL HUTT: NEPAL A Guide to the Art & Architecture of the Kathmandu Valley, ADROIT PUBLISHERS, 1994 資料2 Wolfgang Korn: Wolfgang Korn The Traditional Architecture of the Kathmandu Valley, Ratna Pastak Bhandar, 1976
	ヒヤリング	酒屋の店員とバクタブル在住の高校教師の2人

### 3. 調査対象地の概要

ネパール連邦民主共和国は、インドと中国チベット自治区に挟まれ、東西は約 800 km、南北はわずか約 230km の細長い国である。標高は最低 70m、最高はエベレスト山頂の 8,848m であり、これが約 230km という短距離で起伏しているため、その気候特徴は多様である。バクタブル市は、カトマンズ市から東へ約 15 km のところに位置し、カトマンズ市、パタン市に続く第三の都市である。その地名はバドガオンと呼ばれることもある。この都市は 889 年にアナンダ・マッラ王により築かれ、15～18 世紀にかけて栄えたマッラ王朝時代にカトマンズ盆地の首都として栄えた。1934 年の大地震により大きな被害を受けたが、1970 年以降、ドイツの強力な修復プロジェクトの結果、街はほぼもとの姿を取り戻し、その後 1979 年に世界文化遺産に登録された。3 都市の中で、この街には、特にダルマシャーラが数多く点在している。

### 4. ダルマシャーラの機能と形態

#### 4.1 ダルマシャーラの種類と機能

資料 1, 2 によると、ダルマシャーラは、誰でも利用可能な無料の伝統的な休泊所であり、裕福な人によって、旅人、巡礼者や沐浴をする人のために居場所を提供するためにつくられたと言われている。主要道路の交差点や街路沿い、水源付近、寺院付近に存在し、その数は寺院よりも多いという。また、寺院に所属している素人音楽団体が宗教音楽を演奏する場や、経文を歌う舞台としても利用される。現在では、露店商人が利用したり、道行く人がふらりと立ち寄って腰を掛けて休憩に利用したり、何人かが集まって談笑やゲームをしたり、子供が遊ぶ場所など、住民が好きなように利用している。

ダルマシャーラのつくりは、長方形の木造軸組建築で、細かい彫刻が施された柱や桁があり、勾配屋根が架けられ、床は木板で、後部壁はレンガ造りのものが一

般的である。形態は、平屋で独立しているもの、住居に付随しているもの、あるいは住居の一部となっているもの、2 層以上で宿泊可能なものなど多種多様である。資料 2 によると、ダルマシャーラには「パティ (Pati)」「サッタール (Sattal)」「マンダパ (Mandapa)」「チャパット (Chapat)」の 4 種類があるとされている。なお、ネパールでは、建物の階数の数え方が日本でいう 1 階を地階、2 階を 1 階と呼ぶため、本報告でもこの呼び方に従う。

#### ① パティ : Pati

パティは、ダルマシャーラの中で最も数が多く、現在でもその数は増えているとされている。もともと巡礼者や修行僧の休憩が目的であったため、神が祀ってあるものもあり、芸術性の高い彫刻が施されているものや祭壇があるものもある。立地は、ヒティや水場の近く、街路の脇、角、突き当たり、合流地点、坂道の頂上、池や川の側、広場や寺院の要所等、街の随所に存在する。形態は基本的に長方形をしており、L 字型のものもある。床と屋根、屋根を支える柱で構成され、壁のない開放的な形態のもの、背後に 30cm 程の壁があるもの、3 面に壁があるものなど様々である。床は地面から 60cm 程度の高さまで積み上げられた煉瓦に板が架けられている。

#### ② サッタール : Sattal

サッタールは、もともと休憩、休泊、身寄りのない老人を保護する施設である養老院など、人を守るシェルターのような存在で、寺院に劣らない芸術的な彫刻が施されている。立地は、寺院の門前や神が祀ってある場所の前、街のエントランス付近、神に関連する場所に存在している。また、インドとチベットを結ぶ主要な通りに多いという。

また、パティとの違いは大きく二つある。一つは、サッタールには必ず神が祀られていることである。二つ目は、建物が 2 層以上であることである。パティが一時的に利用する事に対し、サッタールはグル (サンスクリット語で教師の意) やサドゥ (サンスクリット語でヒンドゥー教の修行者の意) らが、インドやチベットなどからやってくる時、無料で長期滞在できる建物である。地階はパティと同じ機能を持ち、1 階から上は宿泊できる部屋が用意されており、旅人や遠方からの来訪者、修行僧だけでなく、街にやってきた商人が、天候などの理由で帰ることが不可能になった場合にもサッタールに泊まることができる。

#### ③ マンダパ : Mandapa

マンダパは、コミュニティホールやレセプションホールとして利用されるなど、街の住民の集会を開く場所として建てられた公民館や集会所のような施設である。政治や生活、宗教等、住民にとって大事な節目で利用する場所を提供するために建てられた施設であった。形態は

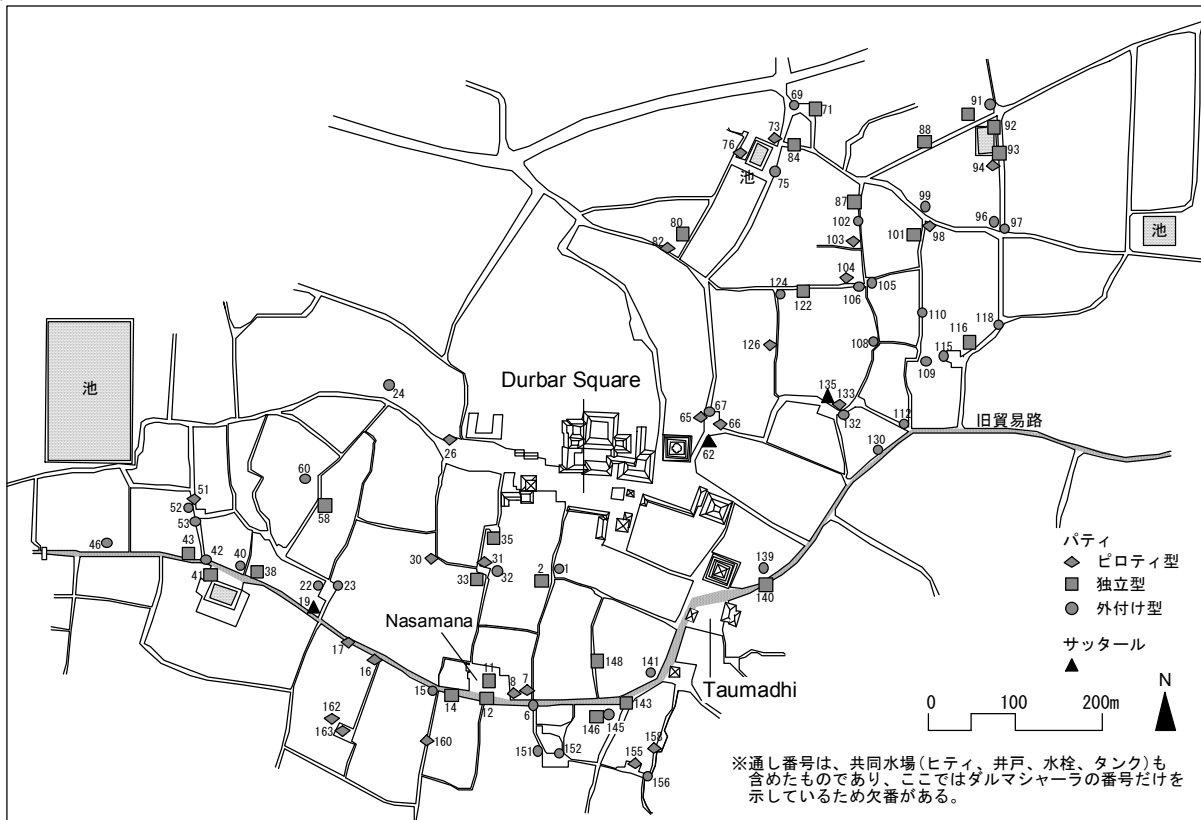


図2 バクタプルにおけるダルマシャーラ（パティとサッタール）の分布

正方形で開放的であり、普段はパティと同じ使われ方をされている。

④ チャパット : Chapat

チャパットは、パタンに2つ存在するだけで、旅人の宿泊所としてだけでなく、祭りやダンス、演劇、会議、講演等のコミュニティホールのな利用がなされることもあるが、サッタールとマンダパとの違いは明確ではなく、存在する2つのチャパットの共通点も少ないという。

バクタプルの踏査の結果(図2)では、パティ(83ヶ所)とサッタール(3ヶ所)が確認できた。なお、判別できないものが4か所あった。そのため、以降ではパティとサッタールの形態について考察する。

4.2 パティの形態

資料1,2によると、パティの形態は大きく分けて、独立型、ピロティ型、外付け型の3つに分類できる。さらに踏査の結果より、バクタプルのパティは、図3のA~Hの8タイプに分類できることが分かった。以下では、それぞれのパティの形態的な特徴を考察する。

① 独立型(写真3,4,5)

この型のパティは、柱と床と屋根から造られた簡素な形のパティA(11か所)と、正方形の床と二重の屋根で造られたパティB(1か所)、Aより天井が高く機能を持

たない屋根裏のような装飾をつけた形のパティC(4か所)の3種類がある。その数はパティAが最も多く、いずれも道幅の広い場所や広場の一角に単独で建っている形であり、正方形や長方形の平面を成している。屋根の形態は切妻屋根、寄棟屋根、片流れと様々である。天井高も様々で、背後には構造壁となる約30cm厚の煉瓦壁が建っているものが多い。その壁には、窓や神やランプを置くためのニッチがあるものもある。

② ピロティ型(写真6,7)

この型のパティは、数階建ての建物の地階んぼ一部がピロティのように解放されており、2面以上が道や広場に解放されたピロティ形式のパティD(18カ所)と、1面のみが解放されたパティE(13カ所)の2種類がある。

その形態は、建物の地階の壁を開放しただけの簡素なものであるが、パティの部分だけ細かいレリーフが彫られており、また内部からの直接的な動線がなく、外部の通行人が利用しやすいように造られている。

③ 外付け型(写真8,9,10)

この型のパティは、既存の建物の壁をパティの背後の構造壁として共有し、建物とは別物の形態や装飾で造られたパティを増築したかのように造られている。パティの壁1面のみが建物と接しているパティF(19カ所)、2面以上で接しているパティG(11カ所)、さらにパティF



の上部にバルコニーが付属されたパティH(6カ所)の3種類がある。この型は、道幅の狭い場所に建てられており、既存の建物に片流れの屋根を差し掛けた形が多いが、道や建物の角に沿った雁行型のものもある。

独立型	A	B	C
	14, 41, 71, 84, 87, 88, 90, 92, 93, 116, 122	12	11, 35, 80, 148
ピロティ型	D	E	
	2, 6, 8, 15, 16, 26, 33, 51, 66, 67, 76, 94, 103, 104, 133, 155, 162, 163		1, 17, 30, 31, 65, 73, 82, 98, 105, 126, 140, 158, 160
外付け型	F	G	H
	7, 23, 32, 40, 42, 46, 52, 60, 69, 75, 91, 102, 106, 109, 110, 118, 124, 143, 156	24, 38, 99, 101, 108, 115, 130, 132, 139, 141, 151	22, 53, 96, 97, 112, 152

図3 パティの形態



写真3 独立型A 写真4 独立型B 写真5 独立型C



写真6 ピロティ型D 写真7 ピロティ型E



写真8 外付け型F 写真9 外付け型G 写真10 外付け型H

### 4.3 サッタールの形態

資料1,2によると、サッタールの形態は大きく分けてピロティ型、層塔型、家型の3種類に分類できる(図4)。しかし踏査の結果、バクタプルのサッタールは3カ所しか存在せず、それぞれの型の形態的な特徴を把握するにはサンプル数が少ないが、資料から把握できる範囲で考察することにした。

#### ① ピロティ型(写真11)

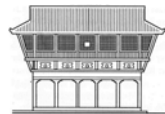


この型のサッタールは2カ所あり、地階はパティと同じく長方形の平面に木板の床が張られ、パティと同じように使われ、1階は休泊所となっている。修行僧が利用するために寺院と隣接させ、後部壁には寺へ繋がる小さな扉がある。また、地階と1階の間にブラインドウォールと呼ばれる壁があり、内部の構造体を隠している。その壁には構造的な役割はなく、美しい彫刻が施され建物を華やかに魅せている。1階の正面と側面は格子張りで囲まれバルコニーがある。

#### ② 層塔型

この型のサッタールは、調査対象地域には存在しなかったが、資料によると、集会所や会議所として建てられたものであるとされている。地階が4面全て開放され、パティと同じように利用される。また、ピロティ型のサッタールが寺院に隣接しているのに対し、層塔型のサッタールは、それだけで重要な建物として意味を持っているとされている。

#### ③ 家型(写真12)

この型のパティは1カ所しかなかったが、資料によると、寺院と一体になっており、地階にはパティと1~2つの部屋がある。1階には複数の部屋があり、周囲にバルコニーのようなものが造られ、寺院の施設の一部として使われる。さらに2階にはホールと部屋があるという。

ピロティ型	層塔型	家型
		
62, 135		19

※図は資料2より引用

図4 サッタールの形態



写真11 ピロティ型 写真12 家型

## 5. まとめ

これまで全容が明らかにされてこなかった、ネパールの王宮広場周辺に点在するコミュニティー空間であるダルマシャーラについて、その機能と形態を整理することができ、バクタプルという限定した地域ではあるが、以下のことを把握することができた。

(1)ダルマシャーラは、市街地全域にまんべんなく分布しており、現在も住民の日常生活における重要なコミュニティー空間として存在していた。

(2)ダルマシャーラは、富裕層が旅人や修行僧に休息の場を提供するために造られた施設で、宗教的な祭りの会場、露天、遊び場などとしても使われる。

(3)ダルマシャーラは、「パティ」「サッタール」「マンダパ」「チャパット」の4種類があり、中でも、パティが最も多く存在する。また、サッタールにはパティの機能と宿泊機能がついており、寺院との関係が深い重要な施設である。

(4)パティは、「独立型」「ピロティ型」「外付け型」の3種類があり、サッタールは、「ピロティ型」「層塔型」「家型」の3種類が存在する。

## 参考文献

- 吉田治典, 梅宮典子: ネパール山岳地帯の伝統的住宅における冬季の温熱環境調査, 日本建築学会環境系論文集, No. 546, pp. 37-44, 2001. 8
- バハドゥル・リジャル・ホム, 吉田治典, 梅宮典子: ネパール各地の伝統的住宅における夏季の温熱環境, 日本建築学会環境系論文集, No. 557, pp. 41-48, 2002. 7
- リジャル・バファドゥル, 吉田治典, 梅宮典子: 住宅におけるネパール人の夏と冬の温熱感覚, 日本建築学会環境系論文集, No. 565, pp. 17-24, 2003. 3
- リジャル・ホム・バハドゥル, 吉田治典: ネパール山岳地帯の伝統的住宅における冬の温熱環境改善: シミュレーションによる検討, 日本建築学会環境系論文集, No. 594, pp. 15-22, 2005. 8
- 佐藤正彦: ヒマラヤの寺院 ネパール・北インド・中国の宗教建築, 鹿島出版会, 2012. 1
- 渡辺勝彦: マンディールとバワンの機能 ネパールの王宮建築における塔の研究 その1, 日本建築学会計画系論文集, No. 355, pp. 100-111, 1985. 9
- 渡辺勝彦: マンディールの構造 ネパールの王宮建築における塔の研究 その2, 日本建築学会計画系論文集, No. 369, pp. 114-120, 1986. 11
- 渡辺勝彦: バワンの構造 ネパールの王宮建築における研究 その3, 日本建築学会計画系論文集, No. 447, pp. 135-141, 1993. 5
- 黒津高行: ネパールの仏教僧院イ・バハ・バヒの断面設計寸法について, 日本建築学会計画系論文集, No. 505, pp. 205-509, 1998. 3
- 渡辺勝彦: ネパール仏教僧院イ・バハ・バヒの平面の復原, 日本建築学会計画系論文集, No. 505, pp. 211-215, 1998. 3
- 黒津高行, 渡辺勝彦: チョク建築の構造 ネパールの王宮における中庭建築の研究 その1, 日本建築学会計画系論文集, No. 408, pp. 101-109, 1990. 2
- 黒津高行: チョク建築の機能 ネパールの王宮における中庭建築の研究 その2, 日本建築学会計画系論文集, No. 412, pp. 97-107, 1990. 6
- 黒津高行: チョク建築の平面計画概念: ネパールの王宮における中庭建築の研究 その3, 日本建築学会計画系論文集, No. 426, pp. 149-156, 1991. 8
- 黒津高行: ムール・チョコの神像と空間意匠: ネパールの王宮における中庭建築の研究 その4, 日本建築学会計画系論文集, No. 441, pp. 125-132, 1992. 11
- 黒津高行: スンダラ・チョコの神像と空間意匠: ネパールの王宮における中庭建築の研究 その5, 日本建築学会計画系論文集, No. 447, pp. 129-134, 1993. 5
- プラジャパティ・ラトナ・ケサリ, 谷内麻里子, 塩谷壽翁: ネワール族の住まいにおける人びとの行動と空間認識から見いだされる空間概念 ネパール・カトマンドゥ盆地のコカナとブンガマティの場合, 日本建築学会計画系論文集, No. 627, pp. 939-946, 2008. 5
- プラジャパティ・ラトナ・ケサリ, 谷内麻里子, 塩谷壽翁: ネワール族の儀礼および祝祭行事における人びとの行動から見いだされる住まいをつくりだす空間概念 ネパール・カトマンドゥ盆地のコカナとブンガマティの場合, 日本建築学会計画系論文集, No. 631, pp. 1861-1868, 2008. 9
- 谷内麻里子: ネワール族の住まいをつくりだす空間概念の連続性と変化 ネパール・カトマンドゥ盆地のキルティプールの場合, 日本建築学会計画系論文集, No. 638, pp. 839-846, 2009. 4
- 黒川賢一, 布野修司, パント・モハン, 横井建: ハディガオン (カトマンズ, ネパール) の空間構成 聖なる施設の分布と祭祀, 日本建築学会計画系論文集, No. 514, pp. 155-162, 1998. 12
- 黒川賢一, 布野修司, パント・モハン, 横井建: ハディガオン (カトマンズ, ネパール) の空間構成 その2 住居, ダルマサル, 辻と住区構成, 日本建築学会計画系論文集, No. 525, pp. 191-199, 1999. 11
- 黒津高行: パタン市における水場ヒティの分布と空間構成について, 日本建築学会関東支部研究報告集, No. 71, pp. 621-624, 2001. 3
- 渡辺智博: パタン市における水場ヒティの平面類型について, 日本建築学会関東支部研究報告集, No. 71, pp. 625-628, 2001. 3